

くぼたゆうき 久保田悠生さん

学校教育学部社会系コース3年

平成3(1991)年たつの市生まれ。22(2010)年に入学。友人たちと結成したチーム「ジェネシス」の一員として、ボランティア活動に参加している。昨年、兵教大初の体育祭や留学生とのクリスマスパーティーを企画、運営するなど学内にも活躍の場を広げている。



↑昨年12月、デイキャンプで子どもたちとベクトボトルでクリスマスツリーを作った



キラリな人 SHINY PERSON

ボランティアに参加している 兵教生を集めて 新しい活動を 生み出したいです

入 学以来、さまざまなボランティア活動に参加

している。デイキャンプの指導員や地域イベントのスタッフ、東日本大震災後は宮城県で缶詰工場の清掃もした。

「大学ではいろんなことに挑戦しようと思っていました。高校まで野球に打ち込んできたが、肩を故障しプレーを断念。野球以外に何も知らない自分に新しい扉を開いてくれたのがボランティア

だった。入学直後、やしろの森公園の里山体験教室の指導員になり、そのつながりで地域で催すどろん子サッカーの実行委員に名を連ねる。

一方、学内においても類は友を呼び、1年生の冬、ボランティア活動に興味のある学部生5人とチーム「ジェネシス」を結成。昨年9月には、どろん子こサッカーで懇意になった(社)小野加東青年会議所から声が掛かり、子ども向けイベントにブースを出展した。

「やしろの森公園から活動範囲がどんどん広がっていききました。出会いの大切さをあ

らためて実感しましたね」

ジェネシスは昨年11月に兵教大初の体育祭を開催するなど、学内でも存在感を高めている。「入学間もないころ、先輩から兵教生の余暇はバイトとクラブだけになりがちと聞きました。それではせっかくの学生生活がもったいない。僕らで大学をもっと面白くできないかなと思って」

近いうちに実現したいと考えているのが、ボランティアに取り組む学生を集めて、体験を語り合う場を設けることだ。「一人一人から話を聞き、互いの体験をシェアすることで、新たな活動が生まれるきっかけになると思うんです」と熱っぽく語る。

「入学前は単に小学校教員になりたいだけだったのが、今は教員になって子どもに何を伝えられるのかを考えるようになりました」。実習に時間を割かれることも多くなったが、旺盛な活動意欲は変わらない。なぜなら、自分自身を磨くとともに、その経験を近い将来、教え子たちと分かち合いたいと願っているからだ。